

5-6

主題 私をちゃんと見てくれていますか

個別ケア

副題 従来型施設での個別ケアの提案

居室担当制

研究期間 24ヶ月

事業所 特別養護老人ホーム 西が丘園

発表者：介護職 川端 高広、菊池 正城

アドバイザー：

共同研究者：介護職 福島美咲 野辺和弘 吉田朋起 菊池正城

電話 03-5924-7711

メール n-3w-2@busonkai.com

FAX 03-5924-7712

URL <http://www.busonkai.com/nishigaokaen/>今回発表の
事業所や
サービスの
紹介

平成10年6月に開設された、定員100名の特養です。
保育所とバス会社が隣接しており、夏祭りや消防訓練等を通し、地域交流を図っております。

《研究前の状況と課題》

私たちの施設は従来型の特養であり、現在の福祉社会の流れであるユニットとは異なる。ケアサービスの一つ一つが決まった時間に一斉に行われ、流れ作業の様であった。その為、御利用者主体の生活とは言い難い状況であった。

- 御利用者向き合える時間が確保できていない。
- 個別の訴えに順応できていない。
- 職員本位で日々の生活が流れがち。
- 御利用者のニーズや状況把握が思うように出来ておらず、ケアの質が低い。
- フロア全体に目を向けなければならない為、導線が長く無駄な動きがある。
- 広い視野が常に必要である為、職員負担が大きい。
- 職員の介護力の差が大きく、対応できる介護量の差も大きい。

《研究の目標と期待する成果》

- 御利用者との密な関わりと情報収集
- 流しのケアから脱却し、御利用者主体のサービス提供
- 職員一人一人の責任感と介護力の向上

以上の事を期待し、居室担当制を導入した。

《具体的な取り組みの内容》

平成 20 年 7 月

様々な課題を解決する為、その日の出勤職員に居室を割り振り（2～3 居室で 8～10 名）、その日のケア全般を担う「居室担当制」の導入。

- 個別ケア実施記録を、居室毎に作成しケアの行き渡りに偏りが出ない様にする。
- 利用者の状態や状況を第一に、職員の介護力も共に考慮した流れで、一日のケアに当たる。

平成 21 年 4 月

ホワイトボードに職員一人一人が活動予定を記入し、動きを明確にする。

平成 21 年 7 月

一年の活動を振り返り、職員一人では対応しきれない個々の訴えに対応する為、居室担当職員を二つのユニットに分ける。

平成 21 年 9 月、12 月

御利用者要望・満足度アンケートを実施。

平成 21 年 10 月、11 月、平成 22 年 6 月

職員に対し個別ケア提供状況アンケートを実施。

平成 22 年 4 月

居室担当者の明確化の為、居室入り口にその日の担当職員の顔写真を貼り出す。

《取り組みの結果と評価》

- 視野を狭めたことで、個別ケアの時間の確保が出来てきている。
- 職員アンケート結果から、御利用者とは会話する時間の拡大と、御利用者の生活情報収集量が増えた。
- 一人一人と向き合うことにより、御利用者本位のサービス提供になってきている（時間を意識しすぎない）。
- ケアに対する責任感の意識付けが出来てきている。
- 自己の介護力を認識し、向上意欲が見られるようになってきている。
- ユニットの活用により、個別ケアの幅が広がった。
- 居室で長く過ごす方にもサービスが行き渡るようになった。
- 流しのケアから抜け切れていない。
- 過度なユニット協力により居室担当制の効果が薄れることがある為、ユニット力の向上と円滑化が必要。

《まとめ》

居室担当制を基に、個別ケアの実施が出来る体制作りをし、自立支援を行う。

《提案と発信》

御利用者に選ばれる施設になる為に・・・

施設を変えよう 私たちが変わろう 介護職。

【メモ欄】追加資料 無